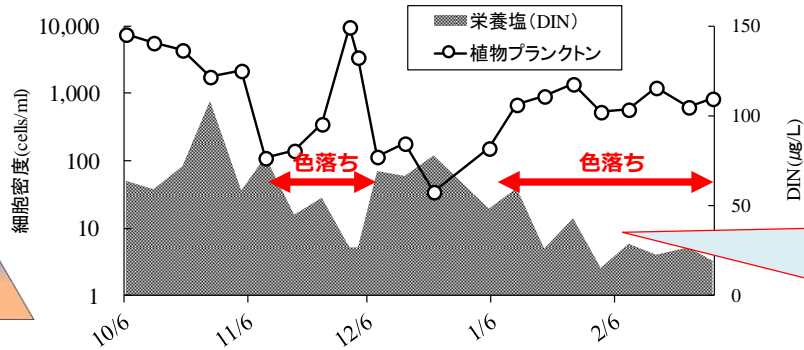
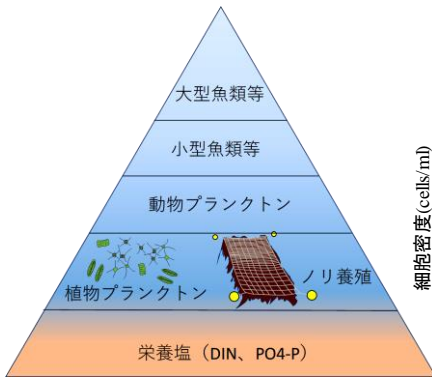
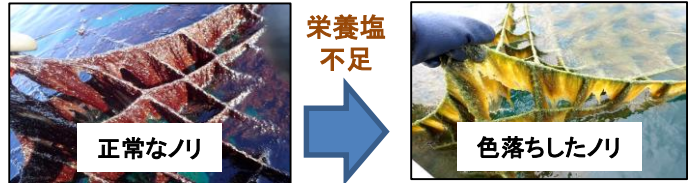


黒ノリ色落ち早期警戒情報(色落ちアラート)の発信

近年の黒ノリ養殖では、栄養塩(チツソ、リン)の不足によってノリの色調が低下する「色落ち」が問題となっています。色落ちは、ノリ製品の品質低下(単価安)につながるため、養殖業者の収入に大きな影響を与えます。

栄養塩を巡っては、植物プランクトンと黒ノリは競合関係にあります。植物プランクトンの発生状況の目安となるクロロフィル量を測定できるセンサーを装備したIoT海洋観測機器を黒ノリ漁場に配備し、その動向をモニタリングすることで、色落ちのリスクを早期に養殖業者に知らせる仕組みを、産学官が連携した取組により構築しました。

植物プランクトンと色落ちの関係

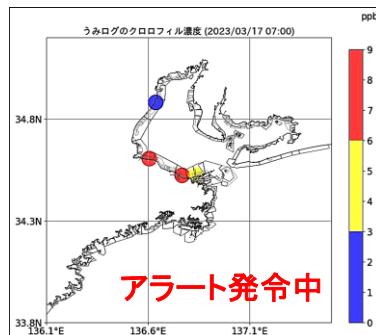
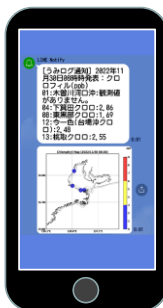


植物プランクトンが増加すると栄養塩量が減少して色落ちが発生する。

色落ち早期警戒情報(色落ちアラート)の発信



SNSで配信



- モニタリング結果をもとに養殖業者に「色落ち早期警戒情報(色落ちアラート)」をSNSで配信します。
- 色落ち早期警戒情報は、漁場毎にクロロフィルの濃度(色落ちリスク)が色分けされています。
- 色落ちが危惧されるレベルの場合は、養殖業者が速やかにノリの収穫を行うなどの対応に活用が期待されます。

図. IoT観測機



三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

Mie Prefecture Fisheries Research Institute

〒510-0243 鈴鹿市白子1丁目6277-4

TEL (059)386-0163

FAX(059)386-5812